

東日本 APM ニュース

ASSOCIATION OF PLASTICS MOLDERS, EAST JAPAN

第558号 2026. 2/17

一般社団法人 東日本プラスチック製品工業協会
 東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル TEL 03(3541)4321
 URL: <http://www.ejp.or.jp> FAX 03(3541)4324
 発行人 笹岡 健治

目次

東日本プラスチック製品工業協会
 令和8年新年賀詞交歓会…………… 1
 全日本プラスチック製品工業連合会
 賀詞交歓会…………… 3

事務局レポート…………… 5
 バイオプラスチック（その4）
 —生産、需要動向—…………… 7

東日本プラスチック製品工業協会 令和8年新年賀詞交歓会

～「学び、備え、次につなげる一年」に～

令和8年1月15日（木）、上野精養軒3階「桜の間」において恒例の新年賀詞交歓会を開催いたしました。官公庁、関連業界団体等多くのご来賓にご出席いただき、また大勢の会員が参加して総勢130名あまりの賑やかな会となりました。



鳥内秀晃様

賀詞交歓会に先立ち開催された新春講演会では、関西学院大学アメリカンフットボール部前監督の鳥内秀晃様をお招きし、「分業制スポーツにおける組織論」と題し、大変興味深く企業経営にも参考となるお話をいただきました。「主体的に行



新春講演会

動することの大切さ」や、「人材育成におけるコミュニケーションの重要性」「組織目標へのベクトル合わせ」など組織運営のヒントをいただきました。

その後、会員企業の経営と業績に大いに貢献された、山下電気(株)・榊洋一様、エンゼル産業(株)・雨宮伸行様、(株)サトーゲーサー・澁谷弘樹様に対し貢献者表彰式が行われました。



貢献者表彰
 (左から澁谷弘樹様、住田会長、雨宮伸行様、榊洋一様)



住田会長挨拶

賀詞交歓会では、原田副会長の司会により、まず当協会の住田嘉久会長から新年のご挨拶がありました。

「皆様、新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、東日本プラスチック製品工業協会並びに協同組合

の事業運営に対し、格別なるご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

また本日ご臨席を賜りました、関東経済産業局志村様をはじめ、関係官庁・業界の皆様には、日頃より温かいご支援を頂いておりますこと、心より御礼申し上げます。

さて本日は、「これからの時代への備え」について、二つの視点からお話ししたいと思います。一つはAI、もう一つは事業環境の不確実性です。

まずAIについてです。AIはすでに身近な存在になりましたが、現場での具体的な活用は、まさにこれからという状況です。しかし今やAIは、スマートフォン一つで誰でも使える、非常に身近な道具となりました。そして、これを使わないまましていると、気づかないうちに時代から取り残されてしまう——そのような段階に入りつつあります。

射出成形の現場でも同じです。成形条件出し、不良対策、立ち上げ時間の短縮といった分野において、AIを活用する時代はすぐそこまで来ています。これは人の技術を否定するものではなく、現場の知恵と経験を支える道具です。

ただし、ここで重要なのは、AIは使う人によって出す答えが変わるという点です。樹脂をどれだけ理解しているか、成形現象をどこまで把握しているかによって、得られる結果は大きく異なります。だからこそ、AIを使いこなすためには、私たち自身がこれまで以上に樹脂と成形を学び続けることが欠かせません。

ここで、皆さまにぜひお願いがあります。

当協会では、プラスチック成形加工研究会を、今後も継続して開催してまいります。材料や成形技術、現場に限らず、経営にも役立つ実践的なテーマを取り上げていく予定です。「忙しいから・そんなこと知っているから」という前に、まずは参加して頂きたい。その一歩が、会社と現場を守る力になると考えています。

もう一つ、大きな視点として事業環境の変化です。

昨日は衆議院の解散が報じられるなど、国内外を問わず、私たちを取り巻く環境は一層、先行きの見通しにくい状況になっています。ご承知の通り、アメリカによるベネズエラへの軍事行動を受け、国際情勢の緊張が原材料価格、エネルギーコスト、物流にまで波及し、私たちの経営環境は地政学的リスクのもとで不安定さを増しています。さらに、世界の重要な資源供給の一翼を担っているレアアースについて中国が輸出規制を強化している動きは、素材・部品の安定供給という観点からも、私たちのサプライチェーンに新たな不確実性を突きつけています。原材料価格、エネルギーコスト、物流、そして素材供給——これらはすべ

て、我々プラスチック産業に直結する課題です。

さらに、こうした外部環境の変化に加えて、深刻化する人手不足も、現場と経営の両面に大きな影響を与えています。技能の継承、現場の負荷、将来を担う人材の確保—これらは、もはや一社だけで解決できる問題ではありません。

このような不確実な時代においては、「これまで通り」のやり方だけでは、会社を守ることが難しくなっています。だからこそ、情報を共有し、学び合い、人材の育成も含めて変化に備える場としての協会の役割が、これまで以上に重要になると感じております。

そしてもう一つ、忘れてはならないのが若い世代の存在です。年始の新聞誌面にも登場しておりましたが、いわゆる *a* 世代は、AIを使うことが当たり前の世代です。この世代が、近い将来、現場や技術の中心になってきます。私たちがAIや新しい考え方に触れないまましていると、技術はあるのに、次の世代と話がかみ合わない—そのような状況が現実になりかねません。

AIは人の代わりになるものではありません。人の経験を、次の世代につなぐための道具です。その橋渡しをするためにも、ぜひ協会の活動に積極的にご参加いただければと思います。

本年が、皆さまにとって「学び、備え、次につなげる一年」となりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。」



祝辞 志村典彦次長

続いて来賓を代表し関東経済産業局産業部の志村典彦次長様からご祝辞をいただきました。

「只今御紹介いただきました経済産業省関東経済産業局の志村でございます。本日御臨席の皆様には、日頃より、経済産業行政の推進に多大なる御協力を

いただき、厚く御礼申し上げます。令和8年の新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

まず、東日本プラスチック製品工業協会及び会員企業の皆様におかれましては、技能検定をはじめとする各種事業を通じて技術の高度化や人材育成に日々研鑽を重ねておられることに対し、心より敬意を表します。その取組は、プラスチック業界の発展のみならず、我が国産業全体の発展に繋がっているものと深く感謝申し上げます。

さて、日本経済は、賃上げや国内投資が約30年ぶりの高水準となるなど明るい兆しが見られています。他方で、地域経済を取り巻く環境は依然として厳しく、人口減少や少子高齢化といった構造的な課題に加え、不確実性を増す世界情勢や米国による関税措置の影響、賃金の伸びを上回る物価上昇等により、予断を許さない状況が続いており

ます。

現在、我が国の経済は、「デフレ・コストカット経済」から、その先にある新たな「成長型経済」に移行する正念場を迎えています。こうした中、我が国のGDPの半分近くを占める関東エリアの企業はその潜在力に見合った力強さを発揮し、成長に向けた投資拡大と賃上げによって日本経済全体を牽引していくことが重要です。

私ども関東経済産業局といたしましても、昨年11月に閣議決定されました「『強い経済』を実現する総合経済対策」等の施策を通じて、成長に向けて挑戦する企業、経営力の強化を図る企業など様々な状況に置かれている事業者の皆様に対するきめ細かな支援に「現場主義」で取り組んでまいります。

特に、物価上昇を上回る賃上げを実現するためには、企業の皆様が生産性を高めて賃上げの原資を獲得することが重要です。この1月から、中小受託取引適正化法（取適法）・受託中小企業振興法（振興法）が施行されました。大企業と中小企業の共存共栄を目指す「パートナーシップ構築宣言」の普及拡大、支援機関との連携等を通じて、厳しい経営状況にある企業の皆様が着実に収益力を向上できるよう、公正・適正な取引環境の整備に取り組んでまいります。

また、エネルギー分野については、再生可能エネルギーに関連する法律の適切な執行等を継続するとともに、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーなど、地域の課題や特性に応じた「GXの実現」に向けた取組を推進します。

これらの政策を進めていく上で、弊局は徹底し

た現場主義に基づき、関係機関との連携を更に深め、変化に挑む方々のお声を拾い上げながら、これまで以上のスピード感を持って御支援に取り組んでまいります。

改めて本年も、経済産業政策に対して、より一層の御協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

結びに、東日本プラスチック製品工業協会の益々の御発展と、本日ご臨席の皆様御健勝と御活躍をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございます。」



児玉連合会副会長の乾杯

次に当協会の上部団体である全日本プラスチック製品工業連合会児玉副会長のご発声で、参加者全員で杯を挙げ、祝宴が始まりました。

中締めは、山下副会長のご挨拶でお開きとなりました。



賀詞交歓会

全日本プラスチック製品工業連合会 賀詞交歓会



原連合会長挨拶

令和8年1月23日（金）、第一ホテル東京4階「プリマヴェーラI」にて官公庁、関連業界団体等多くのご来賓をお招きし、恒例の賀詞交歓会が開催されました。

笹岡専務理事の司会で始まった賀詞交歓会は、国歌斉唱の後、原直宏会長からご挨拶がありました。

「新年明けましておめでとうございます。本日はお忙しい中、監督官庁の経済産業省素材産業課の土屋課長、木村係長をはじめ、多くのご来賓にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

さて、新年にあたりまして、今日は二つほど、感じていることをお話しさせていただきます。

まず一つ目は、人手不足と外国人材の話です。

先日、新宿区では新成人の半分が外国籍だった、というニュースを見まして、大変驚きました。それだけ社会が変わってきている、ということだと思います。私たちの業界でも、人手不足はますます深刻になっております。これから10年、20年たつと、外国人の皆さんと一緒に働くことが、当たり前前の時代になるのではないかと感じております。国のほうでも「育成就労制度」など、新しい制度づくりが進められておりますので、私たちも、こうした動きをしっかりと理解しながら、みんなで働きやすい職場をつくっていきたくております。

もう一つは、取引のあり方についてです。

このたび、「下請法」が「取引適正化法」とい

う名前が変わりました。私は以前から、「下請」という言葉が、あまり好きではありませんでしたので、今回の変更は、とてもうれしく思っております。これからは、発注する側も、受ける側も、対等なパートナーとして、お互いに信頼し合いながら仕事をしていく、そんな関係が、ますます大切になってくると思います。私ども連合会としても、皆様が安心して仕事に取り組めるよう、これからもしっかり支えてまいります。

本年も、いろいろな課題はありますが、行政の皆様、関係団体の皆様のお力もお借りしながら、業界全体で力を合わせて頑張っていきたいと思っております。

最後になりますが、本日お集まりの皆様のご健康とご活躍、そして会員企業のますますのご発展を心よりお祈り申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。」



経産省・土屋課長
挨拶

続いて経済産業省 素材産業課 課長 土屋博史様より、ご祝辞をいただきました。

「皆様、新年明けましておめでとうございます。本年も全日本プラスチック製品工業連合会、新年賀詞交歓会にお招きをいただきまして、誠にありがとうございます。盛大に開催され、

心からお喜びを申し上げます。また、平素より、経済産業行政に対する御理解、御協力を賜り、改めて厚く御礼を申し上げます。

世界では、米国の関税措置や、米中欧をはじめ各国による自国優先の大規模な産業政策の展開など、自由主義経済に代わる新たな国際秩序が生まれようとしています。国内に目を向けますと、賃上げや国内投資が約30年ぶりの高水準となり、名目GDPも600兆円の大台を超えるなど、日本経済に明るい兆しが現れています。

他方で、我が国は人口減少や少子高齢化という構造的要因に直面するとともに、世界的な資源価格の変動など、外部要因も重なったインフレ圧力などの多くの懸念も抱えています。

こうした状況の中、現下のマクロ経済環境を踏まえ、米国の関税措置などの国際秩序の変化に対応しながら、事業者の皆様とともに「強い経済」を実現していくために、供給力の強化や輸出拡大も含めた成長戦略、産業の国際競争力強化の重要



賀詞交歓会

性がますます高まっています。

特に化学産業は、自動車や電機電子、医薬品・消費財、建設資材など、我々の身の回りにある多様な製品を供給する基幹産業です。約100万人が従事し、我が国の製造業の約2割の付加価値を創出するなど、我が国の産業競争力を支える重要な役割を担っています。その中でも、皆様が日々供給いただいているプラスチック製品は、自動車部品、電気電子、医療機器、容器包装、日用品など、幅広い分野で国民生活・社会経済を支えています。

そうした中で、人手不足への対応につきましては、来年2027年4月から育成就労制度の開始が予定されており、射出成形、圧縮成形、ブロー成形が対象となるよう、昨年に引き続き業界の皆様と連携して進めてまいります。

また、価格転嫁も課題です。足元の原材料価格の高騰を受け、サプライチェーン全体で価格転嫁を進めることが重要だと考えております。毎年3月と9月を価格交渉促進月間と位置付けて、皆様が価格転嫁をしやすい環境を作っております。

結びになりますが、今年の干支である「午」はスピード感や力強さの象徴です。駿馬のごとく、力強く駆け抜ける一年となること、そして、全日本プラスチック製品工業連合会の皆様のご活躍を心から祈念して、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。」

次に当連合会岩崎能久副会長の乾杯の発声で祝宴が始まり、来賓・連合会役員が懇親を深め、相互に情報交換を行いました。

中締めは、見玉彦副会長のご挨拶と「勝鬨」でお開きとなりました。



乾杯 岩崎副会長



中締め 見玉副会長

事務局レポート

1. 新規会員のご紹介

新しく当工業協会に入会された企業様をご紹介します。

取扱製品等にご興味のある方は企業様に直接お問い合わせいただくか、協会事務局にお問い合わせください。

(賛助会員)

①仁誠プラス株式会社 様 (千葉県松戸市)

当社は金型や熱交換器用の洗浄剤である「JSクリーナー」を製造しています。

ガスヤニの除去や錆の除去を10分で簡単に行うことができ、機械設備の洗浄後に出る廃液を2次使用や床掃除などに再利用することが可能です。

長年、プラスチック成形現場の課題解決を支援している会社です。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 第422回 理事会議事録

1. 日 時 令和8年1月15日(木)

13時50分～14時25分

2. 場 所 上野精養軒 3階「菊の間」

東京都台東区上野公園4-58

3. 出席者

大野 泰昭	住田 嘉久	上村 俊彦
肥後 武展	山下慎一郎	原田 裕司
橋本 盛介	野坂 晃司	村口 公浩
秋野 勝彦	嶋田 修二	石川 忠彦
伊藤 宏使	曾我部 大	植田 好司
小菅恵美子	佐藤 昭	滝口 裕
福田 晴通	早川 聖人	矢後 史彦
平田 照雅	内山 三男	長谷川矩之
大里 光男	大山 剛	池添 亮
笹岡 健治		

以上出席理事28名(理事総数32名)

谷 和雄 野邊弘一朗

以上 監事2名

4. 住田会長ご挨拶

皆様、あけましておめでとうございます。

旧年中は通常の会の運営に加え、新たな研究会も立ち上げることができました。これもひとえに皆様のご協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。

さて、今年の新年から日経新聞で取り上げられている「 α 世代」について触れたいと思います。生まれた時からAIが身近にある世代であり、2050年には社会の中心を担うと言われています。本日の朝刊では、この α 世代に向けて多くの上場企業の社長がメッセージを寄せていました。その中で、サントリーホールディングス鳥井社長の「9勝1敗より、10勝90敗たれ」という言葉が印象的でした。無難に勝率を上げるよりも、挑戦し続け、失敗から学ぶことこそが大きな成長につながるというメッセージです。もちろん、中小企業が“10勝90敗”を実践するのは簡単ではありません。しかし、挑戦する姿勢の重要性には大いに共感するところです。

本協会としても、今年も「プラスチック成形加工研究会」を継続し、皆様の挑戦を後押しできる存在でありたいと考えております。引き続き、皆様のご協力をお願い申し上げます。

本日は、講演会、貢献者表彰、賀詞交換会と続く長丁場となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。最後になりますが、本日の円滑な進行にご協力いただきますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

5. 専務理事より定数の報告

事務局より理事数32名のうち出席理事は28名であり、定款第33条の規程により過半数の理事の出席があり、本理事会が有効に成立している旨の報告がなされた。

6. 議長選出

定款第30条の規程により会長が議長に選出された。

7. 議事録署名人

議長は、定款第34条により、同人と出席の谷監

事、野邊監事に記名捺印をお願いし、了承された。

8. 議 事

議題1. 経過報告(前回理事会以降の主要行事)

(1) 役員会等の開催

11月13日 第421回理事会
東プラ健保会館

(2) 部会・委員会の開催

①技能検定運営委員会

12月13日 後期技能検定3級射出成形作
業 板橋校

②能力開発推進委員会

12月5日 令和7年度前期技能検定合格
証書伝達式
東プラ健保会館

③青年経営研究会 (JPO)

12月11日 役員会、忘年会
インターコンチネンタルホテル ラ・プロヴァンス

④APM会

11月26日 第196回例会
金乃台カントリークラブ

(3) 支部会等の開催

12月1日 墨東支部会 第一ホテル両国

(4) 全日本プラ連合会

11月13日 技能検定情報交換会
亀の井ホテル別府

12月18日 年末挨拶
経産省素材産業課

(5) 群馬県プラスチック工業振興協会

令和7年9月～10月 群馬県プラスチッ
ク技能伝承学校開校

10月10日 経済産業省中小企業庁による下
請け法に関する会員企業視察会

11月22日 群馬県プラスチック工業振興
協会ゴルフ大会の開催(倶楽部
我山、参加者39名)

11月26～28日 企業見学会 in 広島(マツ
ダ、ダイキョーニシカワ)

以上議題1について諮ったところ特に異議なく
了承された。

議題2. 会員の入会・退会承認の件

(1) 入会の部

賛助会員 1社
会社名 仁誠プラス(株)
所在地 千葉県松戸市小金原9-16-19

代表者 榊原 誠一

業種 金型や熱交換器等の洗浄業務

(2) 退会の部

賛助会員 2社
会社名 東洋スチレン(株)
退会理由 会社都合

会社名 大同特殊鋼(株)

退会理由 会社都合

(3) 会員の増減

	正会員	賛助会員	計	団体会員
前 回	155社	72社	227社	7団体
増 加	0社	1社	1社	0
減 少	0社	2社	2社	0
現 在	155社	71社	226社	7団体

以上議題2について諮ったところ特に異議なく
了承された。

議題3. 令和8年新年賀詞交歓会開催の件

令和8年1月15日(木) 上野精養軒で開催
新春講演会 14時55分～16時05分

3階「桜の間」
講 師 鳥内秀晃様(関西学院大学アメリ
カンフットボール部前監督)

貢献者表彰式 16時10分～16時20分
3階「桜の間」

賀詞交歓会 16時20分～18時00分

以上議題3について諮ったところ特に異議なく
了承された。

【その他報告事項】

以下の項目につき専務理事から説明を行った。

- ①2025年10～12月期会員景況感調査報告
- ②今後の理事会等日程(案)について
- ③全日本連合会賀詞交歓会について
- ④「産業別高齢者雇用推進事業」の申込につい
て
- ⑤振興基準の改正
- ⑥中小企業・小規模事業者関係予算等のポイン
ト(令和7年度補正予算、令和8年度当初予
算等)

バイオプラスチック（その4）

—生産、需要動向—

2022年における我が国の全プラスチック生産量は約1,000万トンであるのに対し、全バイオプラスチック（BP）の生産量は約9万トンと推定されている¹⁾。従って、全プラスチック生産量に占めるBP生産量比率は約0.9%である。また、全BP生産量に占める生分解性BPの比率は約15%程度である。わが国では非生分解性BPはカーボンニュートラルの利点から耐久性が要求される自動車、電機・電子機器などに多く使用されている。一方、廃棄プラスチックの多くは焼却処理や燃料発電に利用されているため、生分解性BPの比率は低い傾向にある。

欧州バイオプラスチック協会では、世界のBP生産・需要について実績値と予想値を公表している。2025年にアップデートされた資料によると、2023年の生産能力と2024年～2029年予想値は図に示す通りである²⁾。同図ではバイオベース-非生分解性プラスチック（BP-NBD）とバイオベース-生分解性プラスチック（BP-BD）に分類してまとめている。



図 世界のバイオプラスチック生産能力と予想²⁾

世界の全プラスチック生産量は約4億トンと推定される。2024年のBP生産能力（予測値）は247万トンであるので、この能力で生産されたとすると全プラスチック生産量に占める全BPの比率は約0.6%となる。また、2024年に対する2029年の全BPの伸びは約2.3倍と予想されている。その中で、BP-NBDの伸びは約1.8倍であるのに対し、BP-BDの伸びは約2.7倍であり、BP-BDの伸びが大きいと予想されている。このようにBP-BDの伸び予想が高い理由は、BP-BDのコンポスト処理による廃棄体制が整っていることによると推定される。

BPの用途には軟質包装、繊維、硬質包装、日用雑貨、自動車・輸送機器、農業・園芸、電気・電子、機能素材（塗料、接着剤）などがある。因みに2024年の用途別で比率が高いベスト3は軟質包装材（28.1%）、繊維（20.0%）、硬質包装材（17.2%）である²⁾。今後においても、これらの用途への需要が増加するためBP-BDの伸びが高いと予想されている。

最後に、わが国から見た非生分解性バイオプラスチックと生分解性バイオプラスチックの利点と課題をまとめて表に示す。

（案山子）

引用文献

- 1) 山田秀夫、プラスチックス、2024年1月号、p.58、日本工業出版社
- 2) <https://docs.european-bioplastics.org/publications> 「BIOPLASTICS MARKET DEVELOPMENT UPDATE 2025」

表 非生分解性バイオプラスチックと生分解性バイオプラスチックの利点と課題

	非生分解性バイオプラスチック	生分解性バイオプラスチック
利点	①温室効果ガスを削減できる。 ②耐久性は同種石油由来プラスチックとほぼ同等である。 ③同種石油由来プラスチックと混合リサイクルできる。	①温室効果ガスを削減できる。 ②環境汚染を低減できる。 ③海洋マイクロプラスチックを低減できる（PHA）。
課題	①高価格である。 ②大半は海外輸入品である。	①高価格である。 ②大半は海外輸入品である。 ③石油由来プラスチックとの混合リサイクルはできない。 ④コンポストによる廃棄体制が必要である（PLA など）。



自社工場で磨いたノウハウで 製造DXを実現



ムラテックの生産管理システム

成形工場の基幹業務をWebシステムに集約
成形業のすべてを一元管理して業務改革を推進

成形業統合生産管理システム

GMICS[®]

成形に最適な
マスタ

多段階
部品構成
管理

MRP/製番
ハイブリッド
方式

EDIデータ
取込み

内外多工程
管理

多拠点
在庫管理

ロット
トレース

資材管理
システム

成形工場にひそむムダ・ムラを「見える化」し
最適な成形環境を構築

成形工場現場管理システム

MICS7

最適な
計画立案

リアル
タイム
稼働監視

成形機
メーカー
不問

実績
データ
ベース化

日次更新
在庫管理

金型
メンテナンス

ムラテックは、西日本プラスチック製品工業協会および近畿経済産業局と協同で、成形機のデータフォーマットを共通化しデータを統合するシステム「Middleware(ミドルウェア)」を開発しました。「Middleware」と弊社製品とのデータ連携強化の取組みを通じて、プラスチック成形業におけるIoT導入推進に取り組んでまいります。

村田機械株式会社
ムラテックフロンティア株式会社

<https://www.muratec.jp/fs/>

ファクトリーソリューション営業部

- 東日本支店 / 埼玉県さいたま市大宮区宮町4丁目85-1 〒330-0802
TEL 048(649)6139 FAX 048(647)9446
- 中部支店 / 愛知県犬山市橋爪中島2 〒484-8502
TEL 0568(63)2311 FAX 0568(63)5779
- 西日本支店 / 京都市伏見区竹田向代町136 〒612-8686
TEL 075(672)8257 FAX 075(672)8390